

## (第二課題)

# メキシコの小都市メックスカルティトラン Mexcaltitlan の都市の自立性とその将来について

ロンドン大学 斉藤 麻人\*

## 1. 研究の背景と目的

Mexcaltitlan (メックスカルティトラン) は首都メキシコシティから約 800 km 離れた西部の Nayarit (ナヤリ) 州にある集落である。

この集落は太平洋岸に面したマングローブの湖沼地帯の中に浮かんだ円形の孤島に広がっており、人口は 2,000 人足らずであるが、小学校、教会、博物館、ホテル等を備えた独自の小コミュニティを形成している。古来よりの伝説によると、アステカ帝国発祥の地とされており、1986 年には大統領令により「歴史遺産」に指定されている。産業としては漁業に全面的に頼っているが、その他に特色ある自然環境や歴史を生かした観光業の発展も期待されている。

本研究の目的は、このコミュニティの経済的、社会的な存立の基盤を地域経済学的側面から調査し、その「自立性」の様態を明らかにすると共に、将来の持続的な発展の可能性及び必要な政策について考察することである。

## 2. 自立性

コミュニティの「自立性」について考察する場合、社会的、経済的、政治的側面に分けてそれぞれの独立性を考えることが手がかりとなるように思われる。社会的独立性とは独自の文化的伝統を持ちそれを基盤に集団的アイデンティティーを確立していること、経済的独立性とは独自の産業基盤を持ち自給自足に近い経済構造を持つこと、政治的独立性とは自治的な行政制度が整備されていること

と言い換えても良いだろう。

この集落の場合、文化的にはアステカ帝国発祥の地としてメキシコ人の『故郷』というプライドを持っている。また島という地理的特徴から濃密な人間関係に基づいた伝統的共同体を形成しており、独自の社会を築いている。経済的には自然環境にも恵まれほとんど全ての現金収入を漁業に頼っている。漁具や漁法も伝統的な土着のものであり、完全な自給自足ではないものの、相当の自立性を達成している。政治的には Sanchago (サンチャゴ) 市の行政区域に入り市議会へ代表を送っているが、独自の行政組織は持っていないことから自立性は低いと言える。

## 3. 持続的発展

この島の持続的発展についての最大の課題は新しい産業の創出と環境整備である。近年漁獲量が減少し漁業だけに頼る産業構造に懸念が出ている。観光業については市当局は振興に積極的だが、島民はあまり乗り気ではなく施設の整備も遅れている。環境整備については上下水道が施設的には整備されているものの、運営上の理由から稼働していないのが問題である。

これらの問題の根本にあるのはこの集落の「自立性」の性質である。文化的・経済的に高い独立性を持っていたことが一種の「孤立主義」を生み、市当局や他の集落との効果的な共同作業を妨げ、上下水道のような広域インフラストラクチャー整備に関してマイナスに働いている。周囲との連携を持った「自立」が持続的発展のために求められている。

\* さいとう あさと(ロンドン大学政治経済学院地理学部大学院)